山都町立潤徳小学校　学校だより

狭霧（さぎり）の朝

潤徳小HP
QRｺｰﾄﾞ

令和４年１１月１８日（金）　第４２号
校　長　池部　聖吾智（みわとも）

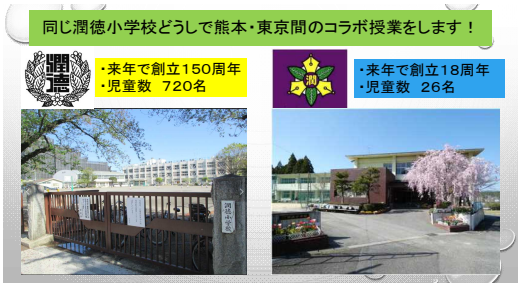
同じ「潤徳小学校」どうしでコラボレーション！

今週15日（火）、潤徳小学校の校長先生から電話が入りました・・といっても私のことではありません。東京都日野市立潤徳小学校の校長先生からだったのです。あいにくその日、私は出張で不在だったので、翌日こちらからかけ直しました。

要件は「同じ潤徳小学校どうしでコラボしませんか」ということでした。実は、私も4月から本校HPに力を入れ始めたときに、東京に同名の学校があることを知り、勝手にライバル意識を持ち、さらにHP運営に力が入りました。そのうち、「せっかくの縁だから何とか交流ができないかな」と考え、そろそろ連絡しようと思っていました。そこに東京の方から先に連絡が入ったというわけです。「思いは通じる」ということは本当にあるのです。

東京潤徳小の斉藤校長先生と話していると大変心地よいのです。斉藤校長先生も同じように、本校のHPをシッカリみられており、「学校だより」についても好意的に読んでいただいていました。記事内容も細かく覚えておられたのにはビックリしました。

紙面の都合で、詳細は述べませんが、お互いの記事内容に共通点が多かったことにも親近感がわきました。「2年生と仲良し」「うちの給食が一番おいしい」「代打オレ」など似たようなキーワードが両校の記事に出てくるのです。一気に距離が近まりました。しかし、校長の思いだけで進めてはいけません。私は、16日の職員会議で先生方に、17日の校内人権集会時（左図は校長講話で使用したスライドの一部です）に子どもたちに両校長の意向を伝え、賛同を得ました。両校のお互いにナイところを知り合い、共に学び合うというスバラシイ機会に巡り会えました。できるところから始めていきたいと考えています。



潤徳抄

先日、パラリンピック金・銅メダリスト浦田理恵さんの講演を聴く機会があった▼浦田さんは、二十歳の時に少しずつ視力がなくなっていく病気にかかり、現在は視力がない状態である。しかし、「ゴールボール」との出会いから自身の考え方を変え、ひいては運命を変えていかれたということを話された▼ゴールボール日本チーム内のスローガン「うまくいったらみんなのおかげ、ミスしたら矛先を自分に向けよう」が心に残った。「ミスを防ぐために自分はどんなことをすればよいかを考える」ことで結果的にチームの成長につながると解釈した▼発症二年後に初めてお母さんに自身の視力のことを伝えたときのエピソードも忘れられない。「母は号泣した後に、できることを一緒に探していこう。あなたは一人じゃないと言ってくれた」▼早速、昨日行われた校内人権集会の校長講話において講演会中身の一部を話題にさせていただいた。何と彼女は私の高校の後輩だった。元気をもらった。